

(情報共有)

NISA分室にお渡し済み

(保守管理メモ)

5/15 (日) 福島地域支援室 9時定例レク概要

<説明内容>

①協力企業作業員の体調不良関連 (昨日レクでの質問の回答)

- ・診断書はまだ出ていない
- ・Jヴィレッジ搬送までの約30分間の対応について
7:03 1F医務室へ搬送。その時点で意識・自発呼吸なし
医療班にてAED・人工呼吸・心臓マッサージ等の応急措置を実施
- ・1F免震重要棟の医療体制は、10時～16時のみ医師が駐在。2F及びJヴィレッジは24時間帯体制になっており、救急車等も素早く対応できるため、そのような状況も踏まえ、医師が不在の時間帯に体調不良者が発生した場合の即応体制に今後検討していく。

②プラント関連パラメータの状況報告 (5月15日 6:00現在) 【口頭説明】

- ・昨日より大きな変動なし
- ・2号機SFPの温度が上昇しているのは注水により温度計が水中につかったことによるもの
- ・3号機圧力容器温度の上昇に伴い、消火系ラインからの注水量増加(全体で12m³/h)したところ、給水ノズル付近や圧力容器下部は下降傾向。ただしその他で上昇しているデータもあることから監視を強化していくことに変わりはない。

③プラント状況、本日の作業予定について 【口頭説明】

【1号機】

- 給水系ラインからの淡水注入について
 - ・8m³/h→10m³/hへ変更し水位の変動を確認する予定。開始後お知らせする。
- T/B地下階、トレンチの水位について
- 原子炉代替冷却設備設置工事について

【2号機】

- 消火系ラインからの淡水注入について
- 集中廃棄物処理施設への廃液移送に伴う水位について
- トレンチ立坑、T/B地下階の水位について

【3号機】

- 消火系・給水系ラインからの注水について
 - ・消火系：昨日6m³/h→9m³/hに変更
 - ・給水系：6m³/h
- T/B地下階、トレンチたまり水の水位について
- スクリーンピット部から取水口内への漏えいについて
- 代替冷却設備設置のためのガレキ撤去について

【4号機】

- T/B地下階水位について
- SFP底部支持構造物設置工事について
 - ・大物搬入口付近他ガレキ撤去について

【6号機】

- T/B地下階たまり水の仮設タンクへの移送について

【その他】

- 飛散防止剤の樹脂散布について
 - ・リモート車両については、予定なし
- リモートコントロール重機によるガレキ撤去について
- 3, 4号機の電源強化(増容量化)工事について
- 3号機トレンチ立坑の閉塞作業について
- 空冷チラーのスペックについて
- メガフロートの出港について

<主な質疑>

- Q. 作業員の死亡を受けて新しい対策等はあるのか。
A. 昨日の段階ではないが、これからの季節、熱中症等の対策も必要となってくる。
- Q. Jヴィレッジには救急車が常駐しているのか。
A. 常駐はしていない。今回も双葉消防本部からきた。
- Q. 救急車両を置くことはできないのか。
A. 現在1Fには寝たまま搬送できる車両は配備している。
- Q. 1号機注水量増加の目的は。
A. 原子炉の水位の変動等を見るため。
- Q. 3号機の注水量増による変化として、若干下がり傾向とのことだが。
A. 給水ノズル付近温度のデータが下がり傾向を示している。
- Q. 報道によると冷却水が止まる前に1号機で高濃度の放射性物質を含む蒸気が漏れていたとのことだが。
A. 朝日新聞の当社のメモ入手の記事についても確認しているが、今日の報道が何に基づいた記事なのか、また、5/13の報道の実態も含め不明。
保安院からの報告徴収に伴い、地震以降のデータを整理し報告する予定。

以上

情報共有

福島支援室レクメモ

5/15 ~ 5/16 分

2

5枚

非常録メモ

福島地域支援室記者レク概要 (15日17時)

5/15 (日) 「協力企業作業員体調不良 (続報) レク概要 (17:00~)

<説明内容>

① 「福島第一原子力発電所での協力企業作業員の体調不良について (続報)」【資料配付】

<主な質疑>

Q. 作業経験は。

A. 配管工として25年経験されている。

Q. 原子力発電所の経験は、浜岡、島根、志賀以外はあるのか。

A. 聞いているのは3ヶ所。

Q. 最近の累積線量が高かったということはないのか。

A. そのようには聞いていない。

Q. 死因と作業との関連性は認められないとの判断は医師の判断か。

A. 当社としての判断。

Q. 心筋梗塞と放射線との関係は無いと思うが、作業と関係ないとまで言い切れるのか。

A. 持病があったという情報はなく、厳しい環境であったということもないことから、直接仕事に起因するものではないと考えている。

Q. 東京では16時半頃 (16:20) に発表しているのに、福島では情報にタイムラグが生じるのはなぜか。タイムラグが無いように対処願いたい。

A. 承知した。

以上

13'12

3

福島地域支援室記者レク概要（15日18時35分）「1号機の炉心状態について」

<説明内容>

- ①「当社福島第一原子力発電所1号機の炉心状態について」【資料配付】
 ②「(参考) 4号機 水素爆発メカニズムの推定」【資料配付】

<主な質疑>

- Q. ガスが3号機から回り込んだのか。
 A. 格納容器の圧力が上昇し、圧力がガスの配管へ移動し3号機へ押していった。
 Q. そもそも想定範囲内だったのか。
 A. ジルコニウムと水素の発生により放射性物質の濃度が高くなることは想定していた。そのため窒素ガスを充填している。しかし今回は圧力が高まりベントをかけ、格納容器内については想定していたが、3号機のベントガスが4号機へ移動することは正直言って想定していなかった。
 Q. 1, 2号機も同じなのか。
 A. 考え方は同じ。
 Q. 資料に4号機の爆発メカニズムとあるが、今まで爆発音と言っており、爆発とは言っていないかったが。
 A. 究明できたわけではないが、損傷の規模などから水素爆発があったものと考えている。また、その後火災が発生しているが、5000リットル程度の油があったことは事実であるが、詳細な究明はできていない。
 Q. 3号機と4号機に排気ガスの合流点があったから爆発したのか。それぞれ単独の設備であったら爆発は無かったのか。
 A. 無かったと考えられる。
 Q. これはメルトダウンということで良いのか。
 A. メルトダウンには色々な意味があるが、燃料が溶融しているため良いと思う。
 Q. 燃料が溶融し再臨界の危険性はあったのか。
 A. 制御棒が溶けると中性子が発生するため再臨界はしないと判断される。
 Q. 炉水が2800℃になったのはいつ判明したのか。
 A. ペレットの融点の関係での解析値である。
 Q. 測定値はないのか。
 A. 2800℃のものを測定できるものはないため解析値としている。
 Q. 何に基づいて今回解析できたのか。新たな数値が出てきたのか。
 A. 現在の解析はあくまでも暫定である。現在データの整理を行っており、整理でき次第改めて報告する。

※レク後のぶら下がりにおける主な質問・コメントは以下の通り

- ・早い段階で推定することはできなかったのか
- ・4時間強で燃料が溶け始めていたという解析結果がでていたことに対して、改めてコメントが欲しい
- 暫定結果であり評価を含めたコメントが出せる段階ではない。

以上

4

福島地域支援室 (5/15 (土) 20時定例レク概要)

<説明内容>

①福島第一原子力発電所プラント状況等のお知らせ (5月15日 午後3時現在)

【資料配付】

②福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について

(第五十一報) 【資料配付】

福島第一原子力発電所付近の海水からの放射性物質の検出について (第五十三報)

【資料配付】

福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について (5月14日採取分) 【資料配付】

集中廃棄物処理施設周辺 サブドレン水核種分析結果 【資料配付】

③福島第一原子力発電所

使用済燃料プール水の分析結果について 【資料配付】

④プラント状況、本日の作業予定について 【口頭説明】

○1u原子炉注水について

・10立米/hに増加した状態で2日程度監視。

○1uRHR代替冷却装置関連について

○3u原子炉注水について

・14:33~17:00 ホウ酸注入 (180kg)。

・消化系9立米/h、給水系6立米/hで継続。

○1u~4uT/B地下階水位について

○1u~3uトレンチ立坑水位について

○2uから集中RWへの移送

・約5,410立米移送。

・受入側の水位 2,628mm上昇。

○3u大物搬入口前のガレキ撤去について

○4uSFP底部支持構造物設置工事について

・ガレキ撤去実施。

○6uT/B地下階→仮設タンクへの移送について

・10:00~15:00 約100トン移送。

・明日は、10:00~14:00 80トンの予定。

○高レベル廃液処理設備設置工事について

○飛散防止剤の樹脂散布について

○リモートコントロール重機でのガレキ撤去について

○メガフロートについて

・5/17午後 小名浜港に到着予定。

⑤飯舘村・川俣町の計画的避難区域の

皆さまの避難開始について (コメント)

以上